

## 思いやり予算・南西諸島への自衛隊配備・MDを斬る！

杉原浩司

二月九日、東京・富士見区民館で「仕分けられない民主党政権に代わって軍事費を大胆仕分け！」という主旨のもと、「二〇一一年度防衛予算を斬る！」と題した企画を行った。主催は反安保実、ピープルズ・プラン研究所、核とミサイル防衛にNO！キャンペーンによる実行委。前年度に次ぐ2回目だが、今回は年末の政府予算案の編成前に設定し、異論をぶつけることを狙った。民主党政権は今年、「元氣な日本復活特別枠」を選び分ける「政策コンテスト」という手法をとった。

今回の市民仕分けでは三つの基準を設けた。第一に、法律的根拠が存在しないものは予算化しない。第二に、軍拡競争を助長する「脅威対抗型」の軍備増強は行わない。第三に、攻撃的兵器は導入しない、である。仕分け対象は新防衛大綱の骨格となる案件をピックアップした。

「仕分け人」一人目の池田五律さん（戦争に協力しない！させない！練馬アクション）は「思いやり予算」（在日米軍駐留経費負担）を検証。来年三月の特別協定期限切れを前に扱いが注目されたが、十一年度の要望額は一八五九億円とほぼ前年並み。政策コンテストの評価会議では、「日米同盟の重要性に鑑みて議論になじまない」とされ、特別扱いとなり、早々にA判定の流れに（その後、五年間、現行水準維持の日米合意を発売）。池田さんは、全駐労のレポート（「在日米軍基地の労働と地域」）を紹介しつつ、「防衛施設周辺整備協会」などの天下り団体の実態を批判、基地のない平和な経済社会の構築が課題と強調した。フロアーからは、六千億円を超える米軍駐留経費全体の問題として捉えるべきとの意見や、総務省予算に基地周辺対策費が含まれているとの指摘も出た。

二人目の木元茂夫さん（すべての基地にNO！を ファイト神奈川）は、自衛隊の与那国島配備など南西諸島への配備経費（調査費九千万円）を検証した。まず、日米（韓）共同軍事演習を防衛省が大々的にPRし、「行

け行けドンドン」姿勢を強めていることを批判。「尖閣」問題は日中双方が冷静さを欠いているが、無人島なのだから話し合いで十分解決できると指摘した。前回「大型ヘリ空母」を仕分けた木元さんは、改めて「海軍力増強も含め日本が行ってきたことの検証が全くないまま、中国脅威論だけが煽られている。国境の軍備増強は、必ずや相手国の対抗措置を引き出す」と強調した。加えて、思いやり予算で作ってしまったものを明らかにすることも重要と述べた。

最後に杉原が、ミサイル防衛（MD）経費（二一六六億円）を検証。PAC3とSM3中心の初期配備が終わり、来年度は、欧州等への輸出を想定した能力向上型SM3ミサイルの日米共同開発の継続と沖繩の第五高射群一個高射隊のPAC3化が中心だ。政策コンテスト自体は茶番だが、パブリックコメント（意見募集）では、思いやり予算は反対論が多数を占め、MD経費も反対派が健闘したことを評価すべき。さらに、武器三原則の大幅緩和の流れに抗するには、最大の紛争当事国である米国の例外化にメスを入れるべきであり、三原則違反の「画像ジャイロ」（無人機の目）日米共同研究も中止させようと言った。フロアーからは、新SM3の輸出先となる欧州のMD反対運動との連携強化の有効性が指摘された。

全体討論では、防衛審議官の新設により、制服組の発言力が強化されていることが指摘され、輸送ヘリの防弾版の搭載改修などがアファガニスタン等への派兵を想定しているとの分析も紹介された。予算全体のより緻密な解析が必要だろう。今後は、評価シートをまとめて、政府の予算編成担当者への提出を予定している。ぜひ各地でも取り組みを。

（すぎはら・こうじ／核とミサイル防衛にNO！キャンペーン）